



号外  
発行 毎日新聞東京本社



第81回センバツ

# 白村、11奪三振も

▽第1試合 11回戦  
慶応

00000010000  
00000020020  
X  
41

開星(島根)

第81回選抜高校野球大会(日本高校野球連盟、毎日新聞社主催)は第3日の24日、阪神甲子園球場で1回戦3試合が行われ、2年連続8回目出場の慶応義塾(神奈川)は、第1試合で初出場の開星(島根)と対戦。先制したが1-4で敗れた。

慶応義塾は昨秋の明治神宮大会を制し、今大会の優勝候補に挙げられていたが、華陵(山口)に惜敗した前回大会に続き、初戦の壁を破れなかった。

試合は、慶応・白村、開星・春木の両エースが先発。慶応は一回に3番・渡辺、二回にも7番・春山が安打で出塁したものの、後続なく無得点。開星も三回、9番・手嶋がバント安打と盗塁で二進したが先制できなかった。

先手を取ったのは慶応だった。六回、先頭の1番・佐藤旭が三塁線を鋭く破る二塁打。石黒の犠打で三塁に進むと、3番・渡辺の中犠飛で先制のホームを踏んだ。

しかし、開星もその裏すかさず反撃。二四球などで2死一、二塁と攻め、5番・本田の左翼線2点二塁打で逆転した。

開星はさらに八回、1番・糸原の中前打などで無死二、三塁とし、3番・松林の左越え二塁打で2点を追加した。

慶応は開星のエース・春木を打ちあぐねて追加点を奪えず。終盤の3回は、わずか1安打に抑えられて惜敗した。先発の白村は、序盤から140<sup>キロ</sup>超の直球を軸に、切れのよいスライダなど変化球を交えて11三振を奪う力投。しかし、先制直後の六回裏、制球を乱し、連続四球から逆転機を献上したのが惜しまれる。

慶応・上田誠監督 初戦は難しい。守備の差で負けた。攻撃でも、先頭の走者を出せず、かき回すことができなかった。単純に実力負けです。



【慶応・開星】力投する慶応先発の白村＝阪神甲子園球場で24日、小川昌宏撮影

# 開星に逆転負け 高塾



時代を読み解く ニュース検定

<http://www.newskentei.jp/>